

DJ-RX2 を中継システムや連続送信環境で使う際の設定について

中継通話システムを利用してガイドシステムにしたい：

- * 交互通話中継でも同時通話中継でも設定出来ます。但し、特小トランシーバー側の送信周波数をA側（440MHz帯で送信）、中継器側の送信周波数をB側（421MHz帯で送信）を選んでシステム設定して下さい。DJ-RX2はチャンネルを合わせるだけです。3分のタイムアウト制限が有りますのでガイドは適時送信を止め、話す内容が切れないように注意して下さい。以下の例はDJ-R100/R20D系の交信モード番号を含めて説明しています。DJ-P10RやP11R中継器では交信モード番号は考慮する必要は有りません。例を参考に中継器とトランシーバー側の送信周波数帯A/Bの選択、グループ番号、チャンネルの設定を行って下さい。

例（1）交互通話中継：

交互通話中継器のチャンネルをL10-L18，B12-B29の範囲で設定する。

- * **トランシーバー側** モード3 / A側 **B12ch**（以下同様）

グループコードを01-06の範囲で設定

- * **中継器側** 5/B B12ch（グループコード設定=同上の番号）
- * **DJ-RX2** B12ch（グループコード設定=同上の番号）

例（2）同時通話中継：（二人のガイドが同時通話する内容をビジターに聞かせる場合）

DJ-R100DLかDJ-R20DをADUA78ケーブルで2台連結し、同時通話中継器に設定します。チャンネルはL10-L18，B12-B29の範囲で設定してください。中継器（2）がカバーするエリアがDJ-RX2の受信範囲となります。ADUA78を延長（自作ケーブル必要）することで中継器（1）と（2）の距離を離すことも出来ます。

- * **トランシーバー側** 4/A L10ch（グループコードを01-06の範囲で設定）

* **中継器側**

中継器（1） 6/B L10ch（グループコードをトランシーバーに合わせて設定）

中継器（2） 6/B L15ch（グループコードを設定、但し別の番号を設定）

- * **DJ-RX2** L15ch（グループコードを設定、中継器（2）で設定した番号に合わせる）

連続送信のガイドシステムを構築したい：

同時通訳などで、絶えず電波を「放送」しておきたい場合は以下の設定をお勧めします。但し、法の規制によりローパワー（1mW）でしか送信出来ないためカバーエリアがかなり狭くなります。この設定ではPTTホールド機能（送信ボタンを常に押し続けていても良くなります）か、PTTロックの掛かるイヤホンマイクやヘッドセットをお使いになることをお勧めします。電池の消耗を気にせず使うには、ACアダプターEDC-122をお使い下さい。

例（3）ローパワーによる連続送信：

DJ-R100DかDJ-R20Dをセットモードで連続送信（ローパワー送信）に設定する。（チャンネルはB12 - B29の範囲で設定してください）

* トランシーバー側 3/B B12ch（グループコードが必要なら01 - 06の範囲で設定）

* DJ-RX2 B12ch（グループコード設定 = 同上の番号）

例（4）：DJ-R100DLをローパワー中継器として使い、少しでもカバーエリアを広げる（このシステムは、自動接続手順解除機能が無いDJ-R20Dでは使い勝手が悪くなるためお勧め出来ません）

中継器、親機として使用するR100DLを、まずセットモードで連続送信（ローパワー送信）に設定します（チャンネルはB12 - B29の範囲で設定してください）。さらにセットモードで自動接続手順解除機能をOFFに設定して下さい。

* トランシーバー側 3/A B12ch（グループコードを01 - 06の範囲で設定）

* 中継器側 5/B B12ch（グループコード設定 = 同上の番号）

* DJ-RX2 B12ch（グループコード設定 = 同上の番号）

= アルインコ（株）電子事業部作成 =